

(大井川鐵道本線沿線における公共交通のあり方検討会資料)

令和5年11月29日

川根本町における大井川鐵道の必要性

(川根本町)

1 必要性

大井川流域をはじめ、県中部地域の活性化のためにも全線復旧が必要

- (1) 大井川鐵道は静岡県中部地域における重要な観光資源
- (2) 沿線住民の生活の一部
- (3) 運休により移住者等の転出に繋がる可能性あり
- (4) 観光交流等を含めた経済成長のけん引に大井川鐵道は不可欠

★ 鐵道の特性（大量輸送、定時性、安定性、経済性、客の移動中の自由等）を活かし、大井川鐵道との連携事業を一層展開することにより、町としても鐵道事業の継続を図る
 =大井川の上流部を含めた流域の資源を活用していくためのツール
 中部地域を周遊する交通機関としての役割を期待

2 定性的な視点（地域住民等から聴取：全員が全線復旧を希望）

(1) 地域住民の声

ア 地域全域

- ・電車やSL、汽笛の音は沿線住民の生活の一部。
- ・運休が町外への転居へのきっかけのひとつに。
- ・被害状況を知りたい。もっと情報の公開を希望。



イ 北部地域（事業者への経済的打撃）

- ・千頭駅前周辺が閑散。（観光事業者等にとって）経済的に大きな打撃。
- ・沿線のキャンプ場では、運休により利用者が減少。
- ・多くの移住者は大鐵（SLやトーマス、汽笛の音）に魅力を感じて移住。運休なら町外へ転居の可能性あり。

ウ 南部地域（学生や高齢者等への生活的打撃）

- ・減便のため、町外へ通学している学生が部活動へ参加できなくなった。
- ・部活動に参加する子供を町外へ送迎したいが、共働きのためできない。
- ・高齢者から、鐵道と比較したバスに対する負担について意見あり（バスは鐵道に比べ目的地到達まで時間がかかる、時間が不規則、乗換えに手間がかかる等）。

エ 住民活動事例

- ・千頭駅構内清掃活動
- ・駅の美化活動（駅舎・花壇整備）田野口駅花の会
- ・大井川鐵道全線復旧を支援する会 署名活動
 - 9/11 静岡県知事へ提出
 - 町民 4,080 筆 町外(町民以外)25,395 筆
 - オンライン署名 6,441 筆 計 35,916 筆
 - 9/29 国土交通大臣へ提出
 - 町民 4,080 筆 町外(町民以外)24,555 筆
 - オンライン署名 6,441 筆 計 35,034 筆
 - 11/ 7 国土交通事務次官へ要望
- ・SUN川根スタンドアップ！プロジェクト
(プレ大会 7/5、本大会 11/23～26)
 - 川根耐久サッカー世界記録に挑戦 目標参加者 3,000 人
 - 川根地域に元気を

(2) 観光関係者の声

ア 川根本町まちづくり観光協会

- ・千頭より北（奥大井）が観光コンテンツとして魅力的（最終目的地となる）。
- ・奥大井への観光振興にとって、**鉄道による観光客の輸送量は非代替的**。
- ・**リピーターの確保**において大鐵の果たす役割大（子供が2人…最低2回乗車）。
- ・大鐵の風景はロケ地として有力（SLは明治～昭和を表現）。
- ・本線の運休により、**井川線まで廃止とならないか懸念**。

イ 川根本町商工会

- ・運休は町の観光振興に大きな打撃。
- ・井川線を利用した観光事業について積極的な検討が必要。

ウ 寸又峡美女づくりの湯観光事業協同組合

- ・大鐵を利用する観光客は全体の約30%程度（紅葉シーズンは約35～40%）。
- ・大鐵が運休により予約を見送る客が多数。寸又峡までの交通手段のひとつ。
- ・鉄道の良さ（大量輸送、定時性、客の移動中の自由（飲食・会話等））は他の交通手段では代替不可。

エ 塩郷の吊り橋付近商店

- ・大鐵運行時と比べ約70%程度（3割減）。
- ・塩郷駅で電車から降車し吊り橋を渡る観光客がいたが、代行バスになってからは降車する人がほとんどいない。
- ・大鐵が走っていたからこそ、吊り橋は跨線橋として魅力＝活気。

オ 島田市観光協会

- ・『島田市観光戦略プラン』において、大鐵は流域の軸。
- ・観光資源として「大鐵に乗ること自体」が観光体験。景色をみながらお弁当を食べてお酒を飲んでという体験は代行バスでは困難。
- ・「大井川鐵道」「S L」「トーマス」「夢のつり橋」「奥大井湖上駅」これらが一体とつながっていることが観光資源として魅力。運休によって、エリアの魅力が半減…鐵道を目的に来る客が減少。
- ・鐵道は大量輸送。千頭駅前の賑わいを鐵道以外の手段で対応するのは困難。
- ・問合せにて、「家山から千頭間は代行バス」と聞いて旅行を渋る（計画中止や変更の）客あり（20件中5件程度）。

カ 富士山静岡空港

- ・「富士山遊覧フライト（富士山～大井川鐵道～奥大井湖上駅）」が好評。今後も積極的に商品を生込み予定（フライトツアーは今年で5年目、延べ3,500人程度参加）。
- ・就航先である台湾や韓国、中国に対し、静岡空港から南アルプスまでの大井川流域に係る商品を生り込んでいくためには大井川鐵道の全線復旧を望む。

3 定量的な視点（データ関係）

（1）年間観光交流客数（千頭駅） **1（1）（4）関連** （単位：人）

年 度	千頭駅周辺	寸又峡温泉バス乗車数(寸又峡行)	井川線乗車客数
令和元	215,544	11,824	53,099
令和2	40,010	4,744	22,860
令和3	106,275	7,022	38,422
令和4	86,780	6,166	26,414

※千頭駅構内入場者を含む。

⇒令和元年度（コロナ前）に比べ令和4年度は大きく減少。

(1-2) 千頭駅降車数 (令和4年9月台風災害後の直近数値)

(単位:人)

	令和元年度(A)	令和4年度(B)	令和元比(B-A)
4~9月	91,528	54,279	▲ 37,249
10~3月	55,151	6,694	▲ 48,457
10月	15,664	450	▲ 15,214
11月	23,029	603	▲ 22,426
12月	4,607	685	▲ 3,922
1月	4,512	1,965	▲ 2,547
2月	3,393	1,186	▲ 2,207
3月	3,946	1,805	▲ 2,141
計	146,679	60,973	▲ 85,706

⇒令和元年度(コロナ前)に比べ令和4年度は大きく減少。特に台風災害後の紅葉シーズンにおける千頭駅降車数の減少は大きい。鉄道の再開により令和元年度程度を期待。令和4年10月からは代行バスの数値を記載。

(2) トーマス号運行前後の推移(千頭駅)

1(1)(3)(4) 関連

(単位:人)

年度	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29
人数	138,006	268,235	270,511	256,638	282,811
年度	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
人数	248,629	215,544	40,010	106,275	86,780

※千頭駅構内入場者を含む。

⇒平成26年度のトーマス号運行開始により約2倍に増加。千頭までの再開により、20万人以上の観光客(平成26~令和元年度程度)を期待。

(3) 令和4年9月台風災害後の直近観光交流客数 **1(1)(4) 関連**

観光交流客数 (KDDI社「Location Analyzer」集計値) (単位: 人/減少・増加率)

施設名	年度	10月	11月	12月	1月	2月	計
寸又峡温泉街	R4 (人)	5,265	15,223	4,899	3,410	5,044	33,841
	前年比	↓ -53%	↓ -55%	↓ -44%	↓ -52%	↘ -11%	↓ -49%
	R1比	↓ -67%	↓ -70%	↓ -58%	↓ -55%	↘ -12%	↓ -59%
奥大井湖上駅	R4 (人)	1,117	3,615	1,221	1,085	2,645	9,683
	前年比	↓ -56%	↓ -41%	→ -9%	↑ +105%	↑ +48%	↘ -21%
	R1比	↑ +44%	→ -1%	↑ +55%	↑ +180%	↑ +89%	↑ +38%
千頭駅周辺	R4 (人)	16,383	26,386	14,639	11,607	11,538	80,553
	前年比	↘ -26%	↓ -36%	↓ -43%	↓ -33%	→ +1%	↓ -32%
	R1比	↓ -47%	↓ -60%	↘ -19%	→ -9%	↗ +10%	↓ -42%
塩郷のつり橋	R4 (人)	7,437	9,339	7,703	6,358	5,945	36,782
	前年比	↓ -40%	↓ -45%	↘ -23%	↓ -36%	↓ -32%	↓ -37%
	R1比	↓ -47%	↓ -52%	↓ -39%	↓ -38%	↓ -45%	↓ -45%

⇒大鉄本線の沿線（千頭駅周辺や塩郷の吊橋）はR1（コロナ前：赤字）や前年度（運休前：青字）に比べ大きく減少。寸又峡温泉街も大きく減少。

(4) 年間観光交流客数 (町内全域) **1(1)(4) 関連** (単位: 人)

年度	令和元	令和2	令和3	令和4
観光交流客数	506,103	232,714	292,977	256,864

⇒令和元年度（コロナ前）に比べ令和4年度は大きく減少。
鉄道の再開により令和元年度程度を期待。

(5) 静岡空港利用客 **1(1)(4) 関連** (単位: 人)

年度	国際線	国内線	合計
令和元	275,643	462,297	737,940
令和2	0	117,240	117,240
令和3	0	188,409	188,409
令和4	2,485	349,629	352,114

⇒コロナの影響で令和2年度は大きく減少したが、徐々に回復傾向。令和4年度から国際線も再開。今後はコロナ前（令和元年度）程度の利用客を期待。

(6) 大井川鐵道（家山～千頭間）の定期券利用者 **1(2)(3) 関連**

種 別	令和4年4月	令和5年4月
通 勤	19 人	16 人
通 学	33 人	20 人
計	52 人	36 人

⇒通勤や通学で鉄道（及び代行バス）を利用している者は一定数あり。

(7) 川根本町に在住している高齢者の状況（R5.4 現在） **1(2)(3) 関連**（単位：人）

高齢者のみの生活者	1,560
ひとり暮らし	722
夫婦	838

⇒場合によっては交通弱者となり得る生活者が多く存在。

4 各種計画等における大井川鐵道の位置付け

(1-1) 静岡県後期アクションプラン【2022-2025 年度】 **1(1)(4) 関連**

・地域の目指す姿(中部地域)

「空・海・陸のネットワークと豊かな歴史、文化で世界の人々が集う中枢都市圏」

・政策 10 「地域の価値を高める交通ネットワークの充実」

⇒静岡空港から中部地域周遊ルートに重要なツール＝大井川鐵道

(1-2) 静岡県過疎地域持続的発展計画【2021-2026 年度】

1(1)(2)(3)(4) 関連

・移住・定住・地域間交流の促進

過疎地域の特色を生かしたグリーンツーリズム・エコツーリズム・アドベンチャーツーリズムの確立

・観光産業等の振興

交流人口の増大と地域の活性化

⇒これらに欠かすことができないツール＝大井川鐵道

(1-3) 静岡県観光基本計画【2022-2025年度】 **1(1)(4) 関連**

第6章 地域ごとの観光地域づくり

3 中部地域

<主な施策の基本方向>

- ・南アルプス、大井川、駿河湾などの自然、大河ドラマの放送で注目を集める久能山東照宮や旧東海道の歴史的な街並みなどの歴史・文化、桜えびなどの駿河湾でとれる魚介類等の多彩で高品質な食と食文化など、地域の様々な魅力を活用した付加価値の高い観光サービスの創出を促進

⇒地域資源を結び付けた高い観光サービスの創出へのツール＝大井川鐵道

(2) 南アルプス交通アクセス改善検討会議 (事務局 静岡県くらし・環境部環境局自然保護課)

1(1)(4) 関連

目的：市街地からの距離や、林道の通行許可等、様々な課題が存在する南アルプスエリア奥地までのアクセス環境について、行政関係者、交通及び地域事業者等からなる関係者が連携し、協働し、登山者だけでなく、一般来訪者など、誰もが気軽に訪れ、その魅力に触れることができる交通アクセス環境について検討を行う

⇒大井川流域における重要なツール＝大井川鐵道

(1-1) ~ (2)

計画上に大鐵そのものの記載はないものの、記載内容の推進に当たっては大鐵が果たす役割は大きい

(3) 第2期しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン (中部5市2町)【2022-2026年度】

1(1)(4) 関連

圏域が目指す将来像 「海・山・街道を活かした多極連携・交流都市圏」

圏域の観光資源⇒大井川鐵道

(本線：SL、井川線：アプト式鐵道・奥大井湖上駅)

自然環境 ⇒南アルプス、大井川、駿河湾

交通網 ⇒富士山静岡空港、大井川鐵道、井川線 (アプト式鐵道)

東海道新幹線、東名・新東名、清水港

具体的な取組み(静岡市・島田市・川根本町)

「圏域全体の経済成長のけん引」

戦略的な観光施策⇒大井川ニューツーリズム推進事業

(大井川鐵道本線(SL・トーマス)、井川線(アプト式鐵道)の活用)

(4-1) 第2次川根本町総合計画後期計画【2022-2026年度】

1(1)(2)(3)(4) 関連

- ・観光の魅力化の推進
大井川鐵道本線・井川線沿線の魅力を活用し、大鐵と連携した観光誘客
- ・広域連携による観光の推進
5市2町DMO(するが企画観光局)との連携
富士山静岡空港、南アルプス、安倍川流域など圏域でのマイクロリズムの推進
KPI 観光交流客 R元 50.6万人 ⇒ R8 62.5万人
- ・公共交通機関の維持・充実
より利便性の高い公共交通体制の構築について調査・検討し、地域の観光交流資源でもある大井川鐵道の利用促進の検討

(4-2) 川根本町過疎地域持続的発展計画【2021-2025年度】

1(2)(3) 関連

- ・交通施設の整備・交通手段の確保
大井川鐵道については、千頭駅と金谷駅を結ぶ主要公共交通機関と位置付け
鐵道利用促進のための支援や周辺活性化事業を検討実施
⇒町営バス・デマンドの見直し、効率的かつ利便性の高い公共交通システムの確立

(4-3) 第2期 川根本町観光戦略プラン【2023-2027年度】 *2023.7月策定

1(1)(2)(4) 関連

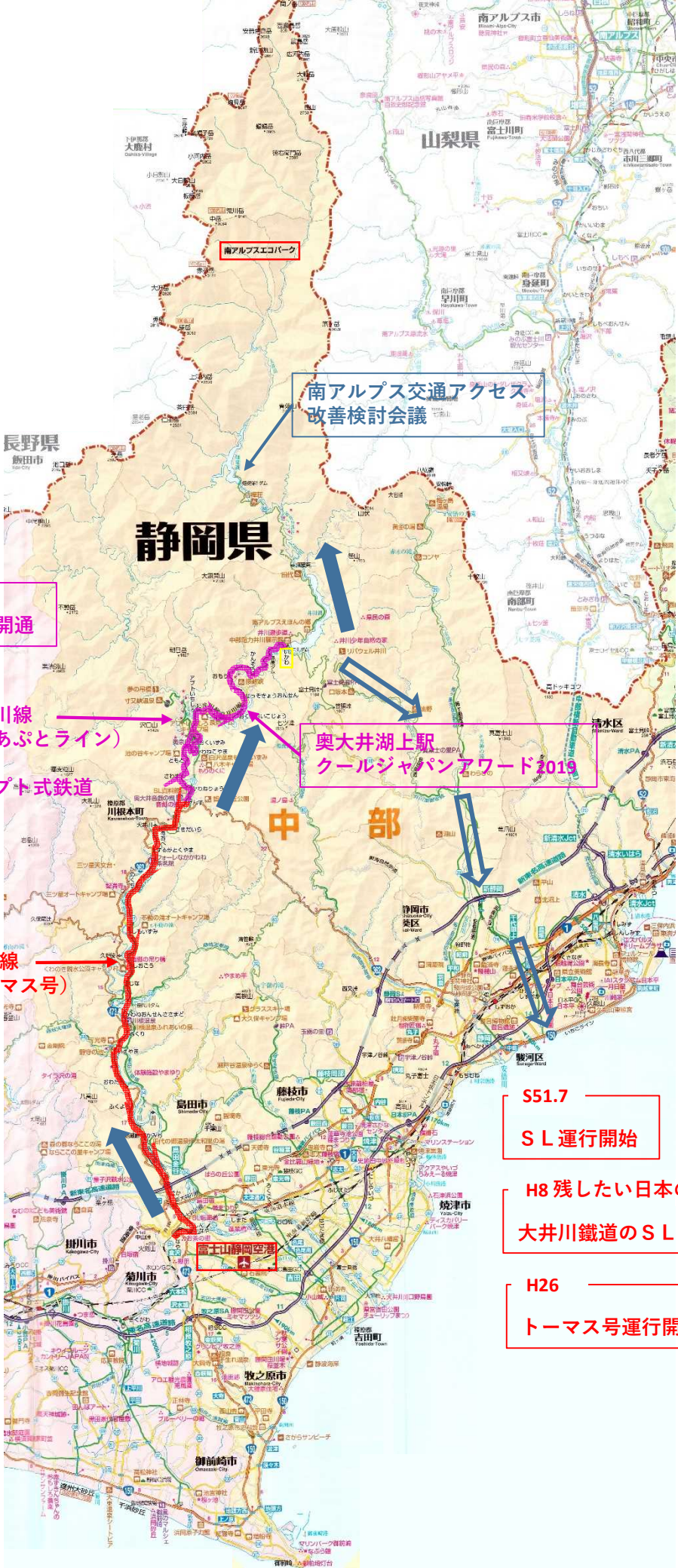
- ・将来像：「雄大な自然が癒す ふるさとのまち 川根本町」
～新緑・紅葉・大井川、お茶と温泉・SLのまち～
(背景)
大井川流域溪谷沿いを走る大井川鐵道のSL、日本唯一のアプト式鐵道である井川線(南アルプスあふとライン)は、かけがえのない町の風景の一部
目標値：観光客・宿泊客数の増加 ⇒大井川鐵道は重要な資源として位置付け
- ・エリア別施策(千頭周辺地区) 目指すべき景観像
「大井川とSLと自然が楽しめる 千頭地区周辺」
○くつろぎたくなる場づくり ○SLの終着駅を活かした場づくり

(3) ~ (4-3)

計画上に大鐵を明記、重要な位置付け

本資料における各項目の関連性

		1			
		(1) 観光資源	(2) 地域住民の交通機関	(3) 定住・移住関連	(4) 地域経済けん引
3	(1) 年間観光交流客数	○			○
	(2) トーマス	○		○	○
	(3) 台風直後の観光客数	○			○
	(4) 年間観光交流客数	○			○
	(5) 静岡空港利用客	○			○
	(6) 定期券利用者		○	○	
	(7) 高齢者		○	○	
4	(1-1) 県後期アクションP	○			○
	(1-2) 県過疎計画	○	○	○	○
	(1-3) 県観光基本計画	○			○
	(2) 南アルプス交通検討会議	○			○
	(3) 中部連携中枢都市圏V	○			○
	(4-1) 町総合計画	○	○	○	○
	(4-2) 町過疎計画		○	○	
(4-3) 町観光戦略プラン	○	○		○	



南アルプスエコパーク

南アルプス交通アクセス
改善検討会議

H2.10

アプト式鉄道開通

大井川鉄道井川線
(南アルプスあふとライン)

国内唯一のアプト式鉄道

奥大井湖上駅
クールジャパンアワード2019

大井川鉄道本線
(SL・トーマス号)

S51.7

S L 運行開始

H8 残したい日本の音風景100選
大井川鉄道のSL

H26

トーマス号運行開始